



JR西労組のLINE登録をしよう!
 JR西労組HP (http://www.jrw-union.gr.jp)

JR西労組
LINE@
 新規登録受付中

「友だち追加」から「ID検索」または「QRコード」で登録!
 @dzc0159s

大阪地方本部を代表して挨拶をする禪野執行委員長



第33回定期大阪地方本部大会

大阪地方本部・禪野執行委員長挨拶(要旨)

組合員の皆さんにおかれては、酷暑が続く中、安全・安定輸送の遂行をはじめとする日々のご精励とJR西労組運動にも積極的に参画し、ご理解・ご協力いただいていることに感謝申し上げます。

はじめに、本年1月1日には、能登地方で大きな地震が発生し、激動の2024年がスタートした。また、昨日には、宮崎県を中心とする大きな地震が発生し、近畿統括本部管内では、人為的な被害は確認されていないが、南海トラフ大地震が発生する恐れが非常に高まり、きのくに線では、特急列車の運転を取り止めるなど、大きな影響が出ている。もしもの時には、自分の身を守ることを最優先にいただき、共済の加入などを含めて災害への備えをお願いしたい。

さて、新型コロナウイルスによる感染症法上の分類も5類相当に移行し1年3か月が経過した。先日、第1Qが公表されたが、過去最高の売上高となり、うち、運輸収入は、2019年比で95.2%に回復してきている。この成果は、3年半の間、一時帰休やグループ内外への出向、度重なる賞与の減額を受け入れ、加えて、うめきた新駅開業など巨大プロジェクトの推進をはじめとして、コロナ禍後を乗り越え、会社の存続のために真面目に現場で頑張った組合員の成果であることは言うまでもない。昨年末には、この間の労苦に対して一時金も支給された。改めて、この間のご理解とご協力に感謝申し上げます。

まずは、夏期多客輸送期間を乗り越え、明るい未来へ切り開く、皆さんと決意を固め合う大会にするとともに、JR西労組運動を力強く進めて行くべく、定期大会の開催にあたり、主要課題5点について問題提起申し上げます。

更なる職場からの安全確立について

福知山線列車事故から19年が経過した。すべての組合員が安全最優先の重要性を理解し職場から取り組みを進めているが、不断に実行するのは決して容易ではない。昨年の大会以降、1年間で2名の仲間を尊い命を失った。また、一歩間違えば重大な事故につながる事象が相次いで発生している。2件の死亡労災もルールや手順を守っていれば防げたはずの事故であり、いかに、「(A)当たり前のことを」、「(B)馬鹿にせず」、「(C)ちゃんとやる」ことで痛ましい事故が防げるということを全組合員に浸透させなければならない。悲劇を二度と繰り返さないために、ABC運動の取り組みを全職場で進めていくこととする。

今、JR西日本グループでは、離職や労働力不足が深刻化している。新技術も積極的に活用し、危険作業の削減など仕事の仕組みを見直し、働き方改革、職場や作業環境の改善などを進めることは急務となっている。その環境下において、職場からの安全を確立するには、労働組合の役割は極めて重要である。会社施策に妥協なく安全へのチェックを行うとともに、働く側から積極的に要求・提言して実効性のある改善を求めることが必要である。労使で議論を重ね策定した「JR西日本グループ鉄道安全考動計画2027」も2年目になる。JR西労組の強みは、すべての職場に業務に精通した組合員がいることであり、今一度、「確認ですが」で始まる「アサーション」を浸透させ「安全お守り手帳」を活用し、更なる職場からの安全の取り組みを要請する。

事故後入社の組合員が組織の7割を超え、事故の事実や悲惨さ・反省と教訓など、事故を知らない組合員へ語り継ぐ取り組みを地方本部として継続していく。

総合労働協約改訂交渉・2025春季生活闘争について

労働協約改訂交渉については、本年も各支部・分会から多くの要望を受け、8月21日から本部一本社間で交渉がスタートする。昨年は、「配偶者同行制度」、「配偶者同行休職」の新設、コロナによる制度など改善を図ることが出来た。今、交渉においても中央本部は、JR西日本グループの将来不安や離職者の歯止めをかけるため、将来に亘り安心して働き続けることのできる環境整備に向け議論していくことになる。より良い制度となるよう中央本部の背中を押していきたい。

2025春闘について、2024春闘は、過去最高の物価上昇に配慮しつつ、継続した人財への投資を訴え、JR西労組充足以降、過去最大の賃上げを勝ち取ることができた。特に、地上職で働く社員の処遇改善や離職が高止まりしている若年層に光を当てることができ、非常に大きな成果を労使で導き出すことができた。

会社も昨年4月に策定した新しい中期経営計画の中で、「人的資本経営」を推し進めていくと宣言している。人的資本経営とは、社員の成長、働きがいや多様性は企業の成長の原動力となるものであり、「人財への投資」は必要不可欠なものであり、世の中の常識であるとして労使共通の認識と考える。2025春闘も労使共通の認識のもと、賃上げの継続性が求められる大変重要な位置づけになる。離職に歯止めをかけ優秀な人材を確保するには「人財へ

の投資」を積極的に求めていく2025春闘を、地方本部として皆さんと創り上げていきたい。是非、春闘の基礎となり貴重なデータとなる「賃金実態調査」を、創意工夫しながら100%集約することを要請する。

業務課題について

コロナ禍により世の中では急速なデジタル化が進展し、社会全体の働き方や価値観が大きく変容したことにより、私たちの働き方も大きく変わろうとしている。運輸系統においては「駅の販売体制の見直し」や、本年7月には会社より、施設系統の「線路設備診断システムの導入」、電気系統では「工事業務のデジタル化」などの提案を受け、今後もデジタル化は進んでいく。

また、各系統において管理単位を大きくする施策が進んでいる。これらは、要員を削る効率化の施策のように見えるが、急速に進む人口減少、並びに労働力不足に対応するため、マネジメント体制の再構築や、業務の省力化に向けてデジタル化・機械化・装置化出来るものは置き換えて対応していかなければならない。施策実施については、関係分会や部会などからご意見も頂き、会社と十分に議論し、施策実施後も一定の期間を置き、施策の検証と振り返りの議論も実施している。意見集約時には、意見を現場の声として伝えていただきたい。

また、2024年1月には会社から本年の募集をもってネクストステップ研修を終了し、プロフェッショナル採用の新たなキャリアステップの方向性について説明があった。エリアを問わず、社員が年代やライフイベント等に応じて業務内容や働く場所等をイメージしながらキャリアアップし続ける仕組みと環境の構築に向けて会社との議論を継続していく。

それ以外にも、2024年度に多くのメニュー提示がされているが、引き続き、安心して働くことができる職場環境の構築に向け、現場からの問題提起をお願いしたい。

組織の充実・強化について

コロナ禍では対面による活動が制限されたが、様々な不安を抱える組合員に対して、分会・支部からJR西労組運動を徹底的に取り組んでいただいたことに感謝申し上げます。昨年からレク活動も再開し、歓迎会も開催できるようになり本来の労働組合の活動を取り戻しつつある。コロナ禍で失いかけたコミュニケーションや絆を、世話役活動を通じて職場から高めていきたい。

今年入社の新規採用者の組織化では、多くの分会で、これまで以上に共済を含めた加入説明に苦勞したと報告を受けている。本部大会でも組織化の在り方についても多くの発言があったが、次年度に向け、支部・分会役員の方々と知恵を出し合いながら、労働組合の魅力・存在意義を新社員の方向に理解いただけるよう、今年の反省も含め対策を講じていきたい。

改めて、取り巻く環境が大きく変わるとも、労働組合の役割・目的は何ら変わらない。このような時だからこそ、組合員に寄り添い、対話を大切に、きめ細やかな対応でJR西労組の存在感を発揮し、地方本部が先頭に立ち、運動を進めていくこととする。

政策・政治課題について

JR西労組の政策や組織などに係る課題の解決に向けて、政治活動の取り組みは極めて重要であり、無関心であっても決して無関係ではない。これまで、組織内議員やJR連合国会議員懇・21世紀の鉄道を考える議員フォーラム所属議員を通じて、国会や関係大臣、地方では議会、自治体に対して鉄道利用促進や持続可能な地域公共交通の構築に向けて働きかけてきた。その結果、様々な支援策を実施することが出来た。また、地方ローカル線などの地域公共交通の再・デザインについても、JR連合の働きかけにより、昨年10月に、改正地域交通法が施行し、持続可能な地域公共交通に向け法整備が行われ、芸備線の一部区間で、再構築協議会を設置し議論がスタートしている。JR西日本が線区別の経営状況を開示した輸送密度2千人/未達の路線に、大阪地方本部管内では関西線が該当する。この、地域公共交通の再・デザインの意味合いについて正しく理解し、関係する分会と連携しながら組合員の不安につながらないよう取り組みをすすめていく。

来年、夏には、参議院議員選挙が行われる。大阪地方本部は、全国比例区において、関西電力総連出身の「浜野よしふみ」参議院議員の推薦を決定している。また、衆議院解散総選挙に向けて、組合員とその家族に対して、より一層の政治への理解を深める取り組みを進めるとともに、「交通政策をすすめる会」への加入拡大に努めていただくよう要請する。

以上、本定期大会に課せられた主要課題について申し上げます。後ほど提起する方針について活発な討議を頂くことをお願いし、執行部を代表しての挨拶とする。

社会の変化に対応し

人に寄り添い、未来を拓くJR西労組運動

大阪地方本部は、8月9日(金)ホテルグランヴィア大阪にて、「第33回定期大阪地方本部大会」を開催した。代議員、執行部、傍聴者を合わせ約200名が集結したほか、連合大阪副事務局長、近畿・大阪交運協西村事務局長、立憲民主党大阪府連代表森山浩行衆議院議員の頼秘書、国民民主党大阪府連代表浜野よしふみ参議院議員、田尻匠前奈良県議会



来賓として出席の中央本部川端副執行委員長

議員、友誼団体、中央本部より川端副執行委員長、福本総務・財務企画部長、中村業務部長、林組織業務部長、新



議員団に選出された松原代議員(左)と橋本代議員(右)

幹線協議会森本副議長など15名の来賓を迎えた。

初めに大阪地方本部を代表して禪野執行委員長から「更なる安全の確立・総合労働協約改訂交渉・2025春季生活闘争・業務課題・組織の充実強化・政策・政治課題について、問題提起し挨拶があった。挨拶要旨は左欄」全体質疑では、18名の代議員から積極的な発言があり(発言項目及び発言者の写真は「二面掲載」質疑に対して執

行部各担当から答弁を行い、熱い議論を交わした。その後、川原書記長が総括答弁を行い、向こう1年間の方針が満場一致で採択され、最後に禪野執行委員長が締めくくり実りのある大会となった。



禪野執行委員長による力強い団結ガンバロー



総勢200名ほどが集結した

第29回 賃金実態調査を行います

2025春闘交渉の基礎データになる「賃金実態調査」を行います。100%の集約を目指しておりますので組合員の皆様のご理解・ご協力をお願いします。なお、9月分給与明細に基づき回答をお願いします。